

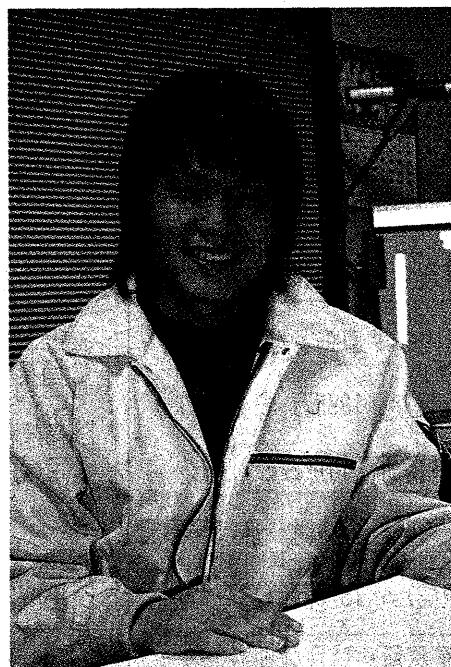
この地でがんばる ㉖

山田建築(安曇野市)

山田 陽一さん(24歳)

方(社長)のもとで、日々技を磨きながら大工としての高みを目指す。目標は「だからも信頼される棟梁になる」ことだ。

高校卒業と同時に、大工の世界に飛び込んだ。甘えが出ないようすぐに家業には入らず、まずは外で修業する道を選んだ。市内の工務店で3年半、厳



安曇野市三郷(旧三つ老舗工務店の4代目)。郷村で長い歴史を持つ父でもある3代目の親

だれからも信頼される棟梁に

と手応えを語る。

職人学校で仲間と技磨く

しく鍛えられ、大工としての基礎を培った。など「理論を学べたことが何より収穫だった」と振り返る。

兄弟子の勧めを受け、志を同じくする「熱き情熱を持った仲間たち」という大きな財産も得た。「みんなマニ

アックとも言えるほど大工の世界にのめり込んでいる人たち」と笑う。課程修了後の

実技試験(木組みによるいすの図面と製作)に向け、みんなで対策を議論した。仲間のひこもり、深夜まで練習に没頭。「四六時中、いすのことが頭から離れなかつた」と笑う。裏付けの理屈にじっくり「見えないとどうもり向き合つ時間を取れないまま来た」。職人学校では、木の特質や道具の大切さ、木組みの持つ強さ(耐力度)の持つ強さ(耐力度)しての基礎を培った。など「理論を学べたことが何より収穫だった」と振り返る。

今年の6月から半年間、「信州職人学校」(県建設労連主催)で伝統的な建築技術や理論を学んだ。毎週土曜日、仕事や家族との時間を犠牲にしたが、「確実にいながらも敬意を込め心から納得し満足できる家づくりを目指す」。

と手応えを語る。

たたき上げで身に着けた刻みをはじめとする技術的な面には、ある程度の自信を持つていたものの、「それを

いたものの、「それと一緒に、深夜まで練習に没頭。「四六時中、いすのことが頭から離れなかつた」と笑う。裏付けの理屈にじっくり「見えないとどうもり向き合つ時間を取れないまま来た」。職人学校では、木の特質や道具の大切さ、木組みの持つ強さ(耐力度)しての基礎を培った。など「理論を学べたことが何より収穫だった」と振り返る。

今年の6月から半年間、「信州職人学校」(県建設労連主催)で伝統的な建築技術や理論を学んだ。毎週土曜日、仕事や家族との時間を犠牲にしたが、「確実にいながらも敬意を込め心から納得し満足できる家づくりを目指す」。